

金沢地域の身近な自然の現状

都市化のうねりとともに、金沢の郊外からは農地が減少し、山すそからは森林が減少しています。

国道8号線の市街地側では、若宮町から桜田町にかけてまとまった農地が残っていますが、その他の市街地では点々とわずかな農地のみみられるだけです。8号線の海側の農耕地でも大規模な開発が進んでいます。浅野川の東側や犀川の西側の山すそには、開発により急激に地形と景観がかわってしまった場所もあります。

その一方で、里山では過疎化による荒廃がめだっています。犀川上流域の棚田や、森下川流域の谷地では、放棄された水田が多くみられます。市街地に近い里山では竹林の侵入が顕著です。里山から人の営みがなくなっていることがうかがえます。

水辺の人工化が進んだことにより、身近な場所からさまざまな潤いがなくなっています。河川敷が単調な芝生になったり、水辺の林が失われたりしています。大規模なほ場整備の中で、農業用水路は垂直の矢板護岸になり、野鳥だけでなく子供たちも危険で近づけません。河北湯ではかつての水郷の面影はなくなりました。



放棄された棚田



市街地の孤立した田んぼ



矢板護岸により人工化された水路



表紙の場所でも大規模な造成が...

身近な自然を探そう、そして守ろう！



浅野川の河畔で見つけたサギ類の集団営巣地



ハス田の水路の中で見つけたミズアオイ

地域の自然に愛着をもち、郷土を誇りとする子供たちがいてこそ、未来へと地域社会は受けつがれてゆきます。将来を担う子供たちを育てるためにも、身近な場所にすばらしい自然を残すことが大切です。

これまでに失われてきた自然を取りもどそうと、里山の保全の活動や、身近な自然を学ぶ活動が、さまざまなかたちで取り組まれています。自然と共生する新しいくらし方の模索が始まっています。まずその第一歩として、いまでも残っている身近な自然を探してみましょ。

『いしかわビオトープ交流会』は、地域の身近な自然であり、生きもののすみかであるビオトープを守り育てる活動の情報交換と経験交流を推進するネットワークです。年会費1,000円でどなたでもご参加いただけます。

発行：いしかわビオトープ交流会（代表 中村浩二）
制作：高橋 久（企画・編集）・川原奈苗・草光紀子・白井伸和
写真：白井伸和・高橋 久

発行日：2003年5月10日

制作にあたり以下の方々に情報提供・協力をいただきました。（敬称略）

加藤明宏・金谷康弘・櫻井英二・新村光秀・永坂正夫・西原昇吾・
能崎千里・野村幸平・蛭田 淳・本間勝美・前川繁代

いしかわビオトープ交流会事務局

〒920-0051 石川県金沢市二口町ハ58

（北陸水生生物研究センター一階付）

TEL. 076-265-3323 FAX. 076-265-3435

e-mail: biotopi@hotmail.com

本誌記載の記事・写真の無断転載を禁じます